

やまぐちっ子の学力向上に向けて

平成26年1月

やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会

平成25年度の全国学力・学習状況調査では、小・中学校ともに、国語、算数・数学の全ての区分において、平均正答率が全国平均を上回り、これまでの取組の一定の成果が見られました。

しかし、全国調査の結果からは、

- 条件に沿って記述したり、自分の考えを説明したりするなど、知識・技能を活用する力
 - 算数の割合など、特定の内容に関する知識や技能の定着
 - 学習習慣の確立や家庭学習の充実など学習意欲の一層の向上
- といった「継続した課題」が明らかとなってきています。

そこで、「やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会」では、これまでの全国学力・学習状況調査や、「学力定着状況確認問題」の結果等を踏まえ、学校における取組や教育委員会の施策について総合的な検証を行うとともに、今後の一層の取組の充実に向けた提案をまとめました。

今後の取組の一層の充実に向けて【提案】

(1) 学校の組織的な取組(学校の力を伸ばす)

- ① 全教職員の共通理解に基づく全校体制づくりを推進するとともに、小・中連携による学習指導の一層の充実を図る。
- ② 学力や学習状況の客観的・経年的な把握・分析のため「学力定着状況確認問題」を継続実施して、全県的な検証改善サイクルを確立するとともに、「やまぐち学習支援プログラム」の集計・分析システムを活用して課題解決に向けた取組の充実を図る。

(2) 指導方法の工夫改善(授業の力を高める)

- ③ 授業における「課題の提示」「話し合い活動の設定」「振り返りの実施」など、指導のポイントの周知を図り、授業改善を促進する。
- ④ 学級や教科の枠を越えた全教職員によるワークショップ型研修等の機会を充実し、児童生徒の学習意欲の向上に向けた授業改善や学習規律の徹底を図る。
- ⑤ 「授業づくり拠点校」等における研修会の継続と充実を図り、質の高い授業に触れる機会を充実する。
- ⑥ 大きな成果をあげている学力向上推進リーダー・学力向上推進教員を拡充し、授業研究等を通して指導力の向上を図る。

(3) 学習環境の整備(学習環境を整える)

- ⑦ 少人数学級化についての研究を深め、児童生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導体制の一層の充実を図る。
- ⑧ 習熟の程度に応じた指導や補充的・発展的な学習の指導、小学校における教科担任制など学習形態や指導方法を工夫・改善し、児童生徒の実態に応じた効果的な少人数指導の一層の充実を図る。

(4) 学習習慣の確立(学習習慣を身に付ける)

- ⑨ 自主学習や家庭学習の充実に向け、「やまぐち学習支援プログラム」の問題を充実するとともに、児童生徒一人ひとりの学力の状況に応じた活用を促進する。
- ⑩ コミュニティ・スクールや地域協育ネットを活用した地域ボランティアによる学習支援の体制づくり等、学校と家庭、地域が連携した取組の推進を図る。